

「曾根崎心中」と近松

～国立文楽劇場4月文楽公演によせて～

期間：令和5年4月12日（水）～5月31日（水）

土・日・祝日、5月1日（月）・2日（火）休室

時間：午前10時～午後5時

場所：神戸女子大学古典芸能研究センター展示室

（神戸市中央区中山手通2丁目23-1 神戸女子大学教育センター2階）

2023年は、浄瑠璃・歌舞伎の作者として著名な近松門左衛門の三百回忌にあたります。それにちなんで、大阪の国立文楽劇場では、4月文楽公演（第三部）で近松作の「曾根崎心中」が上演されます。元禄16年（1703）に大坂曾根崎で起こった心中事件をもとにしたこの作品は、事件の翌月に初演されて大ヒットし、心中物ブームの先駆けとなりました。

今回の展示は、近松三百回忌によせて、「日本のシェイクスピア」と称されてきた近松門左衛門と、「曾根崎心中」を中心とする近松作品について紹介します。あわせて、文楽を観に行く時に役立つ知識——文楽の劇場、舞台の様子、大夫や三味線弾きについて、人形のかしらの種類やその動かし方、文楽の歴史など——を解説したパネルや公演演目ガイドも展示します。毎公演必ず足を運ぶかたはもちろん、興味はあるけれどまだ観たことのないかた、「文楽って何？」というかたも、ぜひお立ち寄りください。



上：「曾根崎心中」天満屋の段 徳兵衛（吉田玉男）・お初（吉田文男）・九平次（吉田玉幸）、三宅晟介撮影、国立文楽劇場2000年6月カレンダー

下：『難波土産』に見える近松門左衛門の肖像（志水文庫蔵）



神戸女子大学古典芸能研究センター

TEL：078-231-1061

<https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/geinou/>

